

第4回 武蔵野市第五期基本構想・長期計画策定委員会 議事要録

-
- 日 時 平成22年11月16日（火）午後7時00分～午後9時23分
- 場 所 市役所802会議室
- 出 席 山本泰委員長、見城武秀副委員長、
小竹佐知子委員、近藤康子委員、作部径子委員、前川智之委員、松本すみ子委員、
会田恒司委員、井上良一委員、
事務局（企画政策室長、企画調整課長他）
- 傍聴者 2名
-

1. 開 会

- ・当日配付資料の確認及びその内容の簡単な説明

事務局：きょうの委員会では、資料1「第五期基本構想・長期計画 討議要綱 主な論点たたき台」の議論をお願いしたい。

委員長：資料2「討議要綱 分野別論点案」は、資料2-1の「長期計画分野別基本施策」（第三期長期計画・第二期調整計画から第四期長期計画・調整計画まで）と対応する形だ。分野別はこれから議論して整理していくが、今回は基本構想・長期計画であり、部門間での組みかえ、また部門そのものの組みかえなど、少し思い切っているいろいろ変えることが可能ではないかと思う。

2. 議 事

（1）討議要綱 主な論点たたき台

- ・「第五期基本構想・長期計画 討議要綱のイメージについて」説明

事務局：資料1の主な論点は、資料2の分野別論点を包含した、第五期基本構想・長期計画の大きな論点という書き分けができる。討議要綱イメージでは、IV章「第五期基本構想・長期計画の

主たる課題と論点」が資料1、V章「分野別の課題と論点」が資料2に対応する。

委員長：市役所的には、事業計画として施策と事業を打ち出す以上、V章の分野別論点が必要なのだろうが、討議要綱ならIV章の主な論点だけで済むのではないか。

事務局：委員会として、今後10年、20年を見据えた、個別具体の事業の前段の大枠の考え方を市民の皆さんに示すということで、資料1に掲げた5つの主な論点を中心にご議論願うわけだが、それだけでは市民の皆さんの興味のある点、関心のある点を表現し切れないため、大きな考え方を示したIV章、各部課の課題を網羅的に示したV章という構成にした。IV章は、時間をかけて皆さんで考えていく課題であるという課題提案型、V章は、「各部課ではこのような方向で施策を展開していきたい」というイメージで書き込んでいく。

委員：IV章の主たる課題と論点で、「都市基盤リニューアル」「コミュニティ」「施設の再配置」は、全分野横断的に議論できる論点だと思うが、「子育て環境」「地域福祉の推進」は、V章の分野別のほうで扱えばいいのではないか。

事務局：福祉や子育ては基礎自治体としては本当に主要な論点であり、個別の事業に入る前に、今後どうしていくかという方向づけを示したい。

委員長：IV章の主な論点は、討議要綱だけにあるものか、基本構想・長期計画にも残るものか。

事務局：主な論点は、計画書にまとめる段階では、基本構想・長期計画の基本的な考え方、基本方針といった表現に変わる部分と認識している。

委員：主な論点を提案し議論するのは、要は施策や事業を何のためにやるのか、「ため」の部分を行行政と市民で共有するということか。

委員長：そういうことだ。どのような背景から、何のために必要かというところを話し合いながら、施策や事業を有意味な体系の中に包み込んでいく、それが基本的な策定作業だと思う。行政のDNAの中に思想や理念を埋め込む作業といってもいいが、施策や事業を実行するのはあくまで行政であり、我々が勝手に作文するわけにはいかない。ともに議論することが大切だ。

・資料1「第五期基本構想・長期計画 討議要綱 主な論点たたき台」の説明

事務局：主な論点は、部長ヒアリングで出された論点、また公募市民会議でご議論いただいた論点の中から、事務局が、個別事業の前段の大きな考え方として市民の皆さんに特にご議論いただきたい論点を抽出し、「都市基盤リニューアル」「コミュニティ」「施設の再配置」「子育て環境」「地域福祉の推進」という5項目の論点に集約した。あくまでも「たたき台」であり、項

目の変更等、自由にご議論いただきたい。

(市民文化)

委員長：10年の計ということであれば、市民文化は主な論点になると思う。文化とは一言でいえば **Way of Life**、生活様式である。生活様式は行政のあらゆる分野に及ぶものであり、21世紀の都市の、サステナビリティ（持続可能性）という要素も含んだ成熟した生活様式として、武蔵野市の市民文化をこれからどう育てていくかということが論点にあってもいい。

委員：大文字の文化ということでの議論はしづらい。5つの論点を考えていく中でふと上澄みのように出てくるのが、武蔵野の次世代の新しい文化かなという印象だ。

委員：戦後から今まで積み重ねられた武蔵野市のさまざまな施策の上澄みにしろ、あるいはその前提となるものしろ、武蔵野ブランドといったことも含めた総合的な武蔵野性、文化をどうとらえるかという論点は、第四期長期計画・調整計画から継続するのであれば、ここでも出しておく必要がある。

事務局：音楽、アート、図書館、生涯学習といった単なる文化事業というとらえ方ではなく、委員長がいわれた広がりのあるとらえ方をすれば、施策、事業の根底にあるものとしての市民文化論は、市民の皆さんに投げかけるべき大きな課題だ。ただ、議論が難しい面があるし、第1回で市長が提案した平和とあわせて、文化をどのような形で提起するか考慮が必要だ。

委員長：市民会館、公会堂をどうするかという課題があるが、これを施設の利用という狭い視点ではなく、都市の魅力、都市生活の質の問題というもう少し大きな枠で議論したい。その意味で、第四期長期計画・調整計画で出された市民文化振興総合計画（仮称）の策定は未着手の状態だが、これを継承しつつ、格上げして次の課題として表に出していくというのは、一考の余地がある。

(市民協働)

委員長：コミュニティという論点は論点として、それとはまたちょっと違う、地域社会を支える仕組みとしての市民協働という論点もあったほうがいいと思う。市民がただ意見をいうのではなく、事業の立案から実施まで含めて参加する、当事者として責任を分担するという意味での市民協働は、地域主権とか自治制度が変わっていく中で、自治の受け皿となる地域社会における行政と住民と専門家の関係も変わっていくという大きな流れの中の重要な部分になる。もちろん税金が高くなってもいいから、市が行政サービスとしてやるべきだという考え方も

あるし、市民協働でいくか、そうでないほうがいいのかは分野によるという考え方もあるし、それは議論されてよい論点だ。

事務局：市民協働を目的化するのではなく、よりよい地域コミュニティ、よりよい地域社会を実現するための手段の1つとして位置づけるのであれば、論点たり得る。

委員：地域でビジョンをつくり、それと整合したまちづくり計画をつくっていくというところが、新しく「まちづくり条例」の中で制度化され、自分たちのまちは自分たちで考えてつくっていくという市民参加の方向に変わってきた。

(子育て環境)

委員：武蔵野市は「0123」の先駆的な事業をやっている。また、保育園の数は十分ではないかもしれないが、武蔵野方式を動かし始めている。そうしたソフト面で子育てがしやすいまちというところを底上げしていく施策が必要だ。

事務局：少子化という広がりのある課題に対して、基礎自治体として、子どもの数をふやすという政策はなかなか難しい。武蔵野市で生まれた子どもたちをいかにいい環境で育てるかという観点で政策を積み重ねるべきと考えている。

委員長：井の頭公園があって、子どもを連れて散歩しながら商店街で買い物ができるという環境で子育てをしたいと思っている人はある程度以上いる。武蔵野市で生まれた子どもを大切に育てるということだけではなくて、武蔵野市のような環境で子どもを育てたいと思っている人のためにどれだけ投資をして、どれだけの人に住んでもらえるか、マーケット・リサーチをして、彼らにもきちっとこたえられるようなアピールの仕方やサービスも考えたらいいと思う。

副委員長：武蔵野市で子どもが少ないのは、地価が高いからだ。武蔵野市の子育て施策がおくれているとか足りないとは別に思わない。夫婦共働きなら武蔵野市に住めても、子どもが生まれてちょっと広い家が欲しいとなると、それは武蔵野市ではなかなか難しい。

委員：子育て環境と少子化対策は結びついている。子育て環境を整えば子どもは生まれる。それはもちろん「子どもを産んだら5万円あげます」という話ではなくて、共働きで大きい家に住んだら子どもを産める。だから、共働きできるように子どもを預けるところが欲しい。子どもを預けるところがなくて共稼ぎできない、つまり給料が半分に減ってしまうから、やむを得ず地価の安いところに移るのだと思う。

親に頼れない母子家庭でも、子どもを預けることができれば、生活保護を受給するのではなく、働いてきちんと税金を払うこともできる。働く女性にとって、男性が手伝わないこと

も大きな問題だが、一番の問題は安心して子どもを預けられる設備が整っていないことだ。それが整っていれば、女性は子どもを産む。

委員長：討議要綱のイメージのところ、子育て環境を主な論点に挙げられるかとの意見があった。地域社会にとって、安心安全、サステナビリティ（維持可能性）は非常に大きな課題だ。特にサステナビリティは税収とも結びついている。地域社会の維持可能性という視点で子育て施策を強化する必要がある、といった問いかけは可能ではないか。

委員：子育て環境を広くとらえれば、安心安全と緑のまちということになると思う。防犯面で安全で、水道を初めとするインフラが整っている。また、地震対策がきちんと立てられていて、消防車や救急車がすぐ来てくれる。子どもを乳母車に乗せて散歩に行ける公園、緑がある。そのようなまちは高齢者はもちろん、地域住民が暮らしやすいまちだ。

委員：まちが将来も豊かであり続けるためには、子ども時代から住んでこのまちを愛し、大人になってこのまちに何か貢献したいと思う人がいかに多くいるかが重要なポイントだ。その意味では、子育て環境はとても大事であり、そこに力点を置くことには大賛成だ。

（地域福祉の推進）

副委員長：ここでいう福祉は、体力的にも年齢的にもいろいろな立場の市民がともに暮らしていけるまちづくり、みんなが乗れるプラットフォームを提供していくことであり、それを「地域リハビリテーション」といっている。その観点から各部の仕事を見ていくと、連携してできる仕事はいろいろあると思う。

委員：地域リハビリテーションは、もともと国連やWHOが提唱したCBR（Community-Based Rehabilitation）の直訳だ。その理念は副委員長がいわれたとおりで、WHOがつくったCBRのマトリックスには、教育を初めいろいろな分野が含まれている。市役所がやる仕事は全部、基本的に地域リハビリテーションであるという理解だ。

委員：福祉を、高齢者や障害者の介護といった意味ではなく、おなかにいる赤ちゃんのときから人生を終えるときまでずっとかかわっていく生活において、生活のしづらさを解消するものという意味でとらえれば、福祉をクロスカッティング・イシューにして、その周りに教育から子育てから、すべてを並べることができる。まさに市長がいった「福祉でまちづくり」ということになるが、財政面も含めて、「福祉でまちづくり」は相当な覚悟の上で使わないといけない言葉だと思う。

委員：ハンデを持って助けを求めている人がいたら、みんなで手助けする、そういう市民が武蔵野

市を形成しているということを訴求していく。

委員長：「福祉」「地域リハビリテーション」という言葉から、分野横断的なものはイメージにすくい
のではないか。

委員：「地域福祉」といわれると、普通、高齢者や障害者の福祉を思い浮かべる。高齢者の移動を助
けているムーブスも地域福祉の一環という発想はなかなかできない。「地域リハビリテーショ
ン」も、リハビリセンターに行って手足を訓練するというイメージだ。

委員長：意味的には「暮らしやすいまち」「だれもが住み続けられるまち」ということだが、それでは
インパクトがない。

副委員長：元気な人も、元気のない人もともに生きられるということで、「共生」はどうか。

事務局：皆さんがおっしゃる分野を超えた融合という概念を、うまくあらかず言葉がなかなか見つか
らない。「縦割りそのものをいかに」といった表現を考える。

委員長：このネーミングは全部言葉が変わってもいいくらいだ。

（都市基盤リニューアル・施設の再配置）

委員長：「都市基盤のリニューアル」と「施設の再配置」を1つにくくって、「都市リニューアル」と
したほうがスマートかなと思う。個別に水道だ、広場だ、市民会館だという前に、「都市のリ
ニューアル」ということで、「戦後 60 年たってさまざまな施設が老朽化、陳腐化している中
で、人口政策も含め、都市のハードの部分をどうマネジメントしていくか」と書いたほうが
論点風ではないか。

副委員長：コミュニティの再活性化のため、あるいは都市基盤のリニューアルのために施設を再配置
するのであって、施設の再配置自体は目的ではなく手段だ。「施設の再配置」はほかの項目と
ちょっとレベルが違うと思う。

委員：「施設の再配置」は、CRE（Corporate Real Estate：企業不動産）に対抗してまさにPRE
（Public Real Estate：公的不動産）的な発想で、遊休地や使っている土地、いろいろな
ものをどう戦略的に動かしていくかということだと思う。本来は運営の仕方とかソフトの部
分を議論すべきなのに、いつの間にかハード、建物の論争になってしまう。それをどう排除
してうまくロードマップをつくるかということがここでの課題であり、「都市基盤リニューア
ル」とはちょっと違うような感じがする。

事務局：「施設の再配置」の最大の関心事は、ハード面から見た分野の融合という観点をどう打ち出す
かだ。経営という観点から財産、施設をどう考えていくかという側面もある。これは財源が

最も必要な部分であり、自分の家の隣地がどうなるかということで市民の関心も非常に高い。特に重要なテーマなので、事務局としてどう考えているかを次回説明させていただきたい。

(次世代への継承)

副委員長：活動が若い担い手になかなかスムーズに継承されていかないため、活動が高齢化しているという問題がいろいろなところで生じている。環境、文化、インフラなどの武蔵野の財産も含めて、次世代への継承という考え方をどこかに入れたい。

事務局：帰属意識がない限り、継承しようという意識も出てこない。外に向かって武蔵野市を発信していくこともできない。帰属意識をどうすれば持ち得るのかという問題と理解する。

委員：外に対して武蔵野市をどう思ってもらいたいか、住んでいる自分たちが武蔵野市の何をもって誇りと思うか、外と内について、次世代が、今までのブランドではなく、リブランド的に違う武蔵野像を打ち出してもいいのではないかと思う。

(環境・農業・広域連携)

委員長：武蔵野市もグローバルな中に置かれている中で、緑や温暖化などグローバルな課題に武蔵野市としてどう取り組むのかという視点もあったほうがいい。

委員：都市農業の多機能性に注目してはどうか。都市農業は、産業という面ではほとんど動けないが、災害時の避難場所、食料の一定の供給という役割を果たすとともに、緑地保全ということで環境に寄与できる。

委員長：姉妹都市の農家とうまく連携し、販売ルートをつくって価格競争に対抗するとか、それがカーボン・オフセットにもつながるとか、小武蔵野ではなく、大武蔵野で考えると、農業はおもしろいテーマだ。

事務局：事務事業に関して、広域で考えて効率化するというのは行政の1つの課題だ。例えば自転車対策は、三鷹市、あるいはもっと広域的にできるのではないか。

委員：三鷹立川間の連立が終わり、高架下はそれぞれ公共が使う部分が定められているが、武蔵野市の区域に三鷹市が駐輪場をつくってもいいと思う。行政窓口も、武蔵境に三鷹市のものをつれば市民生活の利便性が増す。広域連携は進む傾向にあるが、なかなか難しい面もあり、これからも課題だと思う。

また、武蔵野の森事業は、奥多摩の森林保全、水源保全を、武蔵野市、奥多摩町、東京都の財団が連携して行っている。二俣尾の武蔵野市民の森とは、環境教育、多摩材の振興で連

携し、公共施設をつくるときに多摩材を活用したりしている。

委員長：武蔵野の森事業をもっと大々的に知らせればいい。

3. その他

(1) スケジュールの確認

(2) その他

- ・資料3「第五期基本構想・長期計画無作為抽出市民ワークショップ参加状況について」説明
- ・日程の連絡 次回は12月6日

委員長：討議要綱は正月のうちに上げなければいけないということか。

事務局：2月1日公表を一応の目途としている。市報掲載を考え、1月の前半のうちに固めたい。ただき台の作成作業は、ご議論を受けながら事務局で逐次行っている。12月6日には荒々のものをお示ししてご議論をいただきたい。

委員長：必要な作業部会の数を決めて、少し多目に日程を押さえたほうがいい。

事務局：なるべく早いうちに日程をお伺いする。

委員長：議会との意見交換は1月にあるのか。

事務局：今の段階では1月31日を予定している。時間はまだ議会側と調整中だが、おおよそ1日になると思う。

委員長：討議要綱案の段階でお見せして議論するのか。

事務局：今回は案ではなくて、広報するものと同じものでご意見を承る。1週間前ぐらいには原稿をお渡ししたい。

委員長：前は討議要綱案で議論し、それを踏まえて討議要綱にしたが、そのワンクッションはないということか。

事務局：そのとおりだ。

委員長：「討議要綱はこれでいこう」という委員会は、物ができていなければ開けないので、1月のほうがいいだろう。

事務局：恐らくそうなると思う。

————— 了 —————